

八雲

第56号
(令和元年10月発行)

創立100周年記念式典

島根県立大東高等学校



大東高校校歌

- 一、勝田の森の奥深く
文の林に分け入りて
学びの花を摘まんなかな
袂の花のほこらひに
我が青春は謳ふべし
- 二、夕影たかく秋深き
織部の山に風かよふ
かの夕づつの訪ひを
返らぬ夢ときくなれば
手をとりていざ共に哭け
- 三、理想の洋は遙かなり
真理の道の遠ければ
あゝカルデアの牧人が
翠むし屋を今更に
東天高くよまんぞす
- 四、東天高く曙の
光は走る今にして
平和の鐘のひびく時
自由と愛の舵をとり
いざ大瀛に棹さゝん





百周年の記念式典を顧みる

八雲会会長 安原重隆

創立百周年記念事業は、平成26年9月に準備委員会を立ち上げ、多くの関係者により多くの事業の準備と実行をしてきました。が、ここでは記念式典について述べておきます。記念式典の予定日は平成30年10月6日。ところが台風直撃の予報。前々日緊急役員会、沈痛な面持ちの中「決行して事故があってはならない、中止を選ぼう。」とした。当日は講師先生の飛行機便のこともあり中止は正解だった。だが、この上もなく残念であった。

その年の10月27日私は関東支部会に出席し、式典中止の無念の報告をした。森山智先生の「本校の百年の歴史を振り返るDVD」の放映もあり、懇親会に移り自己紹介。ご参加の皆さん世界を股に掛けたようなお話も多々。私は「高校卒以来、町外へ出たこともない田舎者。卒業生会の大役を仰せつかっています。」と紹介し自席へ戻ると、隣席の本校第7期卒・元宮内庁式部官長の苅田吉夫さんから「大東高校を守っていただいていますね。」と声をかけられ、内心最高に嬉しかった。

同年12月21日、大東高校の2学期終業式に併せ

「創立百周年記念校内式典」が行われた。参加者は高校の生徒・教職員、実行委員会の役員のみ。生徒会長の岩間はなさん、中村訓子校長、実行委員会から私が挨拶に立った。3年生諸君が可哀想だった。彼らは「百周年記念学園祭」に燃えてきており、百年目の生徒を自負していた。私は、挨拶の中で述べた。「皆さん百周年記念の式典が中止になったこと記憶しておいてください。皆さんのこれからの人生にも、社会生活にも、どんなに頑張ってもどんなに準備しておいても、思い通りにいかないことが必ずあります。今回の式典中止を教訓として、これからの長い人生を不運の時にこそしっかりと生き抜いてください。」と。

翌令和元年5月20日、ついに池上彰先生の百周年記念講演会開催となった。講師招聘にご尽力いただいた方々に感謝です。会場は、加茂町文化ホール「ラメール」。大ホールは満席、サブホールも準備しておいた。講演内容を私などが論評するまでもない。後日、高校で掃除中の女子生徒に聞くと、すかさず「私たちが高校生活を送るうえで、たいへん役に立つお話でした。」と答えてくれた。巷の噂でも講演会は好評で、記念事業を实のあるものとする事ができた。

事業推進のためご寄付をお寄せいただいた地域の皆様や全国の卒業生の皆様に感謝を申し上げます。それらにより高校の施設用品等も整備し、記念誌も発行しました。また、スタート時点から準備に尽力された奥井彰前々校長、今井靖前校長、赤山克司前々教頭、江川数司前教頭の先生方から、記念講演の後日、慰労のお手紙をいただき、当時を偲びました。

百周年という大きな区切りは終わりました。八雲会（卒業生会）は大東高校の大応援団です。今後ともご支援のほどお願い申し上げます。





未来をつくる学びの創造をめざして

校長 中村 訓子

2019年、平成から令和への時代の移り変わりと同様、大東高校は101年目のスタートを切りました。

昨年度行う予定であった百周年記念式典は、台風25号の影響でとりやめとし、12月に校内式典という形で行いましたが、百周年記念講演会は、この5月20日、池上彰先生を再び講師としてお迎えし、「これからの100年に向かって」という演題で、たくさんの皆様のご来場を頂き、実施することができました。生徒たちは、池上先生のご講演から社会への目を開かれると同時に、学ぶことの意義を考え、これからの社会を担うものにとって大切な「種」に出会うという、得がたい機会をいただきました。これも多くの卒業生の皆様、大東高校を支えていただいている皆様のご理解、ご支援の賜物と心から感謝申し上げます。

平成29年度から始まった「高校魅力化事業」も3年目に入りました。「誰にとっての魅力か」ということがよく議論されますが、学んでいる生徒にとって魅力のある学校であると同時に、学んだ生徒たちがそれぞれの個性を生かし、「輝く」ということもまた学校の魅力になるのではないかと考えます。

そのような意味で、今年度の生徒たちの活躍は特筆すべきものであるように感じています。まず、県総体では、学校規模が学年4クラス以下のグループで、6年ぶりに男女総合優勝を果たすことができました。インターハイへは15年ぶりに女子バドミントン部が出場を決め、男子バドミントン部と共に1、2年生のチームながら、粘り強く闘い、それぞれに全国での1勝を手にすることができました。空手道部もこれまでの練習の成果を生かして女子団体組手で4年連続のインターハイへの出場を果たしました。また、この夏の全国高等学校野球選手権大会は、初戦で敗退はいたしました。相手チームの選手への気配り、野球を愛する者としての振る舞いは、応援していただいた方々に強い印象を残しました。吹奏楽部も久しぶりに部員数が増え、吹奏楽コンクールでは大編成

の部に出場し、銀賞を獲得しました。

社会の変化を背景にして、教育は大きな変革の時期にあります。AIの進化やインターネットが普及した社会はこれまで以上に変化の速度を早めるでしょうし、情報化、グローバル化が進んでいく時代に必要な力を学校の中だけで培うことは困難になってきています。今年の夏休み、1年生は地域へ出てボランティアを行い、地域の皆様からたくさんのお話を学ばせていただきました。2年生はそれを一歩進めた地域の課題についての探究活動を行っています。卒業した昨年度の3年生の中には、そのようにして学んだ地域課題を解決しようと志を持って進学した生徒や、地域に貢献したいという思いを持って就職した生徒たちも多々います。学校が地域や社会と連携・協働しながら新しい時代に求められる力をつけていくことが必要とされる中で、このように地域の皆様のご理解を得て学びを創造できることもまた本校の魅力につながるのではないかと考えます。

学ぶ内容だけでなく学び方そのものも大きく変わろうとしています。百周年記念事業でご寄付いただきました浄財から、ICT機器の整備を行わせていただきました。これからの社会を担い、創っていく生徒たちの力となる学習環境を整え、本校の魅力化を支えていただいておりますことにも改めて感謝申し上げます。

上梓された『大東高等学校百周年記念誌』には、その時代その時代の青春の日々が綴られ、同時にそれをいとおしみ、慈しむ気持ちが伝わってまいります。スイスの哲学者カール・ヒルティは、「青春の日の夢を軽視してはならない。たいがいの場合、それは無意識な素質に応じた夢なのであり、従ってその人の使命とするところにもなっているものだ。」と語っていますが、今の生徒たちにとっても、大東高校で学び、つむいだ夢が未来につながるものとなるよう一層努めてまいりたいと存じます。今後とも母校に対するご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和元年度

八雲会 総会



令和元年度の八雲会総会を7月6日（土）に、大東地域交流センターにおいて開催しました。今年度は各部活動の活動披露を行いませんでしたが、校長から、百周年記念式典および記念講演会の紹介がありました。また、100周年を振り返る映像、ケーブルテレビで放送された「あおはる雲南～大東高校編～」(学校紹介)の上映も行いました。総会では、会長、校長の挨拶の後に議事に入り、平成30年度活動、決算報告、平成31年度（令和元年度）の事業計画および予算などの説明がありました。その後に懇親会に入りました。

今年度の総会の出席者は、昨年度より少なくなりました。今後の会の運営の仕方などを工夫することが課題であると再認識した会でした。来年はさらに多くの方にご出席していただけるように工夫していきます。

関東支部会

持田 啓司（第32期）

八雲会関東支部では平成30年度総会を10月27日（土）、八雲会本部から安原重隆会長、森山智幹事長をお迎えし、アリスアクアガーデン東京丸の内に於いて開催しました。関東支部会員の参加者は12名で、総勢14名での開催となりました。

始めに安原会長より挨拶をいただきました。実は開催日前の10月6日に予定されていた大東高校創立百周年記念式典は、台風の直撃の影響を受けて中止となりました。会長からは、中止になった無念さはあるものの、翌5月20日に池上彰氏を招いた講演会「これからの百年に向かって」を百周年にちなんだ行事として執り行うこととしたこと

が報告されたほか、記念式典で披露すべく準備した百周年を記念した会長挨拶を披露いただきました。これまでの百年を振り返ることはもちろん、これからの百年を見据えて何をしていくべきかという、池上氏の講演会テーマと同じ想いを熱く語っていただきました。

続いて、奥田勲顧問の乾杯で歓談開始です。いずれの参加者も高齢となって来てはいるものの、話が弾み高校生当時を思い出し始めると、皆若々しい笑顔になっていきます。また、関東に出てきて苦労しながら頑張ってきた皆さんの専門分野のお話は興味が尽きません。

さて、お酒も入り会場が盛り上がり上がってきたところで、森山幹事長より大東高校をさらに思い出させる女学校時代から続く高校や周辺風景のスライド上映が始まりました。懐かしい校舎や耕心寮などが映し出されると、さらに参加者の時間は遡っていきます。卒業期は違うものの、懐かしい高校の風景を鑑賞しながらの宴は大変盛り上がりしていきます。

名残尽きない楽しい宴ではあり



ますが、最後に校歌を斉唱し記念撮影を行ってお開きといたしました。

最後になりますが、毎年開催するこの総会も、顔ぶれが変わらず新メンバーの参加を期待するところではありますが、やはり若手の参加を増やしていく必要があります。関東に在住の卒業生の把握が難しくなっている状況ですので、この会

報をご覧の方のご家族のなかに進学や就職で関東に住所を移される方がいらっしゃれば、ぜひ連絡を取るようにお伝えください。不案内な関東にいらっしゃって新生活を始める方に、関東在住の会員がしっかりサポートしていきたいと思っています。



関西支部会

関西支部長 広木 益夫 (第16期)



今年の関西支部総会は、4月20日、新幹線新大阪駅のプラットホームが見下ろせるニューオーサカホテル13階ベルビュー慶招樓で、本部から中村訓子校長、錦織直行副会長をお迎えして、出席者30名での開催となりました。

昨年は、創立百周年記念の年であり、沢山の式典や行事がありました。関係の皆様、本当にご苦労様でした。立派に行事を全うされたことに敬意を表します。

この度の総会には、百周年記念として、日本画「葦角」を寄贈されました芦田裕昭画伯（6期）ご出席により、学校からの申し出によって会の冒頭に感謝状授与式を組み入れさせていただきました。中村校長より、直接、芦田画伯への感謝の意が伝わり、また、芦田画伯からの挨拶も聞くことができました。同席された皆様も、この場所に居合わせた喜びを感じられたと思います。早春賦の二番の歌詞に「氷解け去り、葦は角ぐむ、さては時とぞ思うあやにく」と歌われていますが、心の伝わる素晴らしい贈り物と感動しています。

また、百周年記念に関して丁度いい機会でしたので、戦後発足時、新制大東高校の初代校長を務められた野々村運市様のことを紹介させていただきました。時代は明治、大東の街の商家野々村家

に生まれ、明治32年島根県立師範学校卒業、21歳で大東尋常小学校長を3年務めた後、東京高等師範学校（現在の筑波大学）に入学、その後、同校の教授になられ、教育者として立派な足跡を残された方です。昭和20年に定年退官。空襲で東京の自宅が消失したのを機に、郷里の大東に疎開されたことで、島根の教育界に関わることとなり、新制大東高校の初代校長として就任されたという経緯です。百周年記念誌に当時の様子が載っていますので参考にしてください。

陶山重忠（高6期）さんは、何時も出席されていました。この度は入院中にもかかわらず、是非出席したいとのことでしたが、医師の許しが出ず不参加になりました。伝えたいことがあったのでしょう。当日、娘さんが本人からの手紙を会場に持ってこられましたので、高橋さんに代読してもらいました。後日、5月7日に死去されたとの訃報が届きました。ご冥福を祈ります。

宴会は、中村淳（高22期）さんが、今回も名酒の差入れとジャンケンゲームを企画して盛り上げてくれました。また、中村校長がプロジェクターで百周年に関する昔の映像をスクリーンに映されました。また、発刊したての記念誌も回し読みが行われたので話題も豊富であり、あっという間に終わった気がしました。最後は、渡部富在（高11期）さんの万歳三唱の締めで散会となりました。

関西支部会は、長い間休眠状態でいたのを、本部の要請があり、平成22年に私が支部長、高橋潮（高10期）さんが事務局を担当して、再開しました。当時、10期、11期の卒業生の方々を中心にまとまりがよく推進力になっていただきました。その後続いているのも高橋さんをはじめ、諸先輩方のお陰と感謝しています。ありがとうございました。今回から事務局の担当が小山勉（高23期）さんに交代となりましたので、よろしくお願ひします。

気軽な気持ちで交流できて出席して良かったな
と思える支部総会になるように、今後も頑張っ

ていきますので、若い世代の参加を願っています。



広島支部会

広島支部支部長 佐藤 眞 (第17期)

八雲会広島支部は令和元年度総会を7月20日(土)、八雲会本部から景山副会長、石原事務局長(教頭先生)をお迎えし広島市南区のホテルニューヒロデンに於いて開催しました。

当日は、台風の影響で大雨が心配されていましたが、広島県内から会員24名の方の参加がありました。参加した皆さんの顔ぶれを見ますと、昨年の西日本集中豪雨災害の影響で参加できなかった高定12期佐藤和紀さん、高16期渡部剛さん、高17期飯浜利さん、今年は元気に参加されました。また高18期土井恵子さん、高22期藤本恵美子さんには久しぶりに、そして高50期若槻幸治さん高51期富永みちるさんには初めて参加頂きました。

渡部幹事の司会で総会は始まり、佐藤支部長の開会の挨拶、景山副会長のご祝辞、石原教頭先生の近況報告があり、佐藤支部長の開会挨拶では、台風が心配されるなか多数参加頂いたことへの謝辞と当会の活性化のため会員掘り起こしの情報提供の願いがありました。景山副会長のご祝辞の中では、百周年記念事業の報告と謝辞、そして富久先輩たちが苦勞して立ち上げた広島支部をいまでも立派に継続させていることは素晴らしいことで敬意を表します。という嬉しいお言葉を頂きました。石原教頭先生からは、生徒数と進路実績や部活動状況、百周年記念事業などについての近況報

告があり、特に少子化の影響で生徒数が減少している現状、そのなかで生徒たちは文武両道の精神でそれぞれ頑張っている、また「しまね留学」制度を導入し県外からも生徒を受け入れていることなどについてお話がありました。また期待していた高校野球は残念ながら予選敗退ということでした。

続いて議事に入り広島支部30年度決算報告があり満場一致で承認され、毎年元気で出席頂いている高5期の狩野さんの乾杯の音頭で懇親会に入りました。久しぶりの出合いで賑かに会話が進み、自己紹介などお互いの近況を確かめました。校歌、応援歌、壮行歌が二度三度歌われるなか瞬く間に時間が過ぎましたが、特に景山副会長のリードで応援歌を歌った時は、あの勝田神社での応援歌練習が思い出され、ほろ苦くも懐かしい高一時代が甦ったひと時でした。

高17期の黒川暘右さんが「来年はこの会の参加者をぜひ倍にしましょう。そして必ずお会いしましょう。」と再会を約束し総会は終了し、来年も盛会に開催することを約束し散会しました。広島支部も会員の高齢化という問題に直面してきましたが、今回は高50期若槻さんと高51期富永さんが参加されたことで、会が若返った感がありました。特に若槻さんからは、「今後この会は私たち若い

ものが引き継ぎます。」との嬉しいお言葉も頂きました。

会員も平成30年末現在約190名登録されていますが、平成11年（高51期）卒業生を最後に以降の新規登録はありません。この空白を少しでも埋め

会員数を増やし活性化させることが急務です。このため皆様の親戚、先輩、後輩、同窓会等から会員を発掘し紹介下さい。

会員数拡大のため皆様の一層の協力を頂きますようよろしくお願い申し上げます。



おりべ5期の会 2019

高校第5期卒業生同窓会、愛称「おりべ5期の会」の2019年会を、6月18～19日、玉造温泉・玉井別館で16名が参加し開催しました。

会員から寄せられた「近況・メッセージ」によると、3人に1人が何らかの形で体調不良を訴えていますので、昨年に続く参加者20人割れも「お年頃の所為」と、一同妙な形で納得した次第です。

開催に先立ち、物故者へ黙祷、代表挨拶、会務報告に次いで、今年度のテーブルスピーチは、萩野晶子さん（旧姓藤原・松江市）の、「八十五歳の老春を楽しむ」。萩野さんは、地域・文化各方面での活動の傍ら、アメリカ生まれのラウンドダンスの指導・普及に努めています。

開宴の乾杯は、脳梗塞を克服した永瀬哲男君（大阪市）と、転倒・脳内出血を治療した橋本倭夫君（松江市）の、共に昨年は欠席した快気者同士のお二人。

カラオケの部を、舟木老弘君(大東)、入江早苗



さん（旧姓内田、松江市）、佐々木弘子さん（大東）、太田保子さん（旧姓森・松江市）などが盛り上げ、お開きの乾杯は中林延子さん（旧姓吉野・加茂）と中村博光君（松江市）。最期は、恒例の校歌斉唱と、「星影のワルツ」の大合唱で締め括りました。

2次会兼談笑会では、この会が、いつまで続けられるかが話題となりましたが、お互いボケに気をつけて。とりあえず88歳の米寿までは頑張ろうということで落ち着きました。

85歳の老春を楽しむ～歌やダンスで認知症予防に～

萩野 晶子(旧姓:藤原)

教職員退職互助会の組織で、退職後の生活を。豊かに有意義に過ごす手立てとしての趣味活動が、12種目あります。ダンスもその一つです。退職後まもなく、退職互助会の副会長から、料理クラブの幹事役を依頼され、同時にダンスへの誘いもあって始めたのがダンスとの最初の出会いです。

当時はフォークダンス、レクリエーションダンス、民謡などを踊っていましたが、平成7年頃、高齢になっても踊れる、アメリカ生まれのグランドダンスを知り、以来このグランドダンスに乗り換え、今日に至ります。

ワルツ、ルンバ、チャチャチャなどのステップの曲に、吹き込んだキューイング(指示)を聞いて、クラシック曲、ポピュラーソング、日本の歌などを取り入れて踊る和やかさ!! 社交ダンスに比べて基本が易しく、初心者でも直ぐに踊れるようになるので、山陰両県を含めて、全国各地で高齢者の人気を集めています。例えば、

【アメージングワルツ】を踊ると、レフトターン、フェイスウォール、レディラップのキュー(指示)を受けて、それぞれのカップルが一斉に動き、大きな円が伸びたり縮んだりしながら優雅に回転します。とても壮観です。講習会やステージ発表の折に、ダンス衣装に着替えると、自然と明るい微笑みと共に、女性の感性が彷彿して、第2の青春がよみがえった思いもいたします。

現在、会員20名で、土曜日午前、いきいきプラザで踊っています。昨年は高齢者施設を訪問し、【百歳万歳】他、数曲踊って交流を深めました。

今年は満85歳の誕生日を迎えます。いつまで踊れるか分かりませんが、ボケ防止のためにも、生活の一部として仲良く、楽しく可能な限り踊りを続け、「85歳の老春」を楽しみたいと思う今日この頃です。

ちなみに、同窓生の入江早苗(旧姓内田)さんも指導者のお一人です。

平成から令和へと時代が移りました。平成は戦争もなく、幸せな、平和な時代でしたが、一方で阪神・淡路大震災、原発事故、東日本大震災など、大きな国難を経験しました。

令和の代は、どのような時代を刻むのでしょうか。少子高齢化、労働力不足、AI(人工知能)革命等々、昭和世代の私たちには手に負えない課題ばかりですが、そんな中、認知症問題ばかりは避けて通れない身近な課題です。ご参考までに、歌やダンスの医学的な効能について補足しておきます。

脳科学者・久保田競京都大学名誉教授は、ダンスは「認知を司る前頭葉をすごく使うので、単純な運動より効果が高い」と述べておられます。宝塚歌劇団のOGで、神戸大学医学研究科を修了した榎谷多紀子さんによると、「宝塚OGと一般女性を対象に、脳機能検査を行ったところ、宝塚OGは歳をとっても認知力が高く、若い頃に練習した歌やダンスが影響している」と分析し、磁気共鳴画像装置(MRI)で調べた脳の海馬の容量の平均値は宝塚OGが一般女性を上回っているとし、認知症予防薬の解明につながる可能性がある」と注目しています。

新会員紹介



藤本 彩乃(第71期)

私は、大東高校を卒業し4月から広島大学総合科学部に進学しました。総合科学部とは文系・理系の枠を超え、諸問題へ多角的にアプローチする力を養うことができる学部です。高校では文系だった人でも生命科学や数理情報科学などの理系分野を専攻することができ、理系だった人でも人間文化や地域探求などの文系分野を専攻することができるため、同じ学部にいるにもかかわらず周囲には自分とは全く異なる分野に興味を持つ人がたくさんいて、日々刺激を受けながら将来の夢を模索する毎日です。

また、大学では勉強だけでなく学科のイベントやサークル活動も盛んにおこなわれており、高校生の時には想像もできなかったほど多くの人と関わる機会が増えました。学科内で班を作りキャンプや祭りをしたり、サークルで様々な学部・学年の人たちと練習や試合をしたりしてとても充実感のある生活を送ることができています。

今後は、大学での4年間を有意義なものにするために、興味のある物事には積極的に挑戦し、後悔のないように過ごしていきたいと思います。

憶

石倉 亮

大東町について思い出してみました。大東町の暦は古く、町制になったのは明治33年(1900年)10月でした。今年で119年です。産業も種類別に多くあり、代表的なものには、砂鉄業、木材・木炭、養蚕、家畜等があり、運搬に使用した赤川に、高瀬舟が往来して、斐伊川から宍道湖美保関にて北前船に荷物が動いていました。高瀬舟の語源は赤川の高瀬舟であり、全国に広まったと伝えられます。1部は郷土誌に記載されています。大東町は神話も多く、神社も大社造りが多くあり、風格があります。

交通は赤川の高瀬舟から私鉄の開設です。今の木次線は、最初は、簸上鉄道であり、横田から宍道まで民間の豪族によりできました。後に国に買収されました。全国でも数少ないモリブデン鉱が採取され、多くの人たちが働いていました。町章には桜の花が使用されているように、町内には桜の木が多くあり、現在の木次・三刀屋の川土手以上に多く、丸子山公園、小学校、赤川の土手などは桜の名所になっていました。

大東の七夕祭は有名です。夏は七夕祭、エビスさん、盆踊、山王寺神楽があり、楽しんでいました。相撲も盛んで、小学校には屋根付土俵もあり、大会もできました。秋祭には各神社の境内に土俵を作り、奉納した大相撲も巡業がありました。

政治にも昔から関心があり、明治時代になり、代議員により議事を決めていた昭和の初めの頃から、終戦後の総選挙では大東町出身の民主党、森山左衛門氏、全国で一番の得票数を取り新聞に載りました。竹下登氏の大先輩です。総選挙、

地方選挙などの、投票者数も全国第一位の地位を数年続けていました。選挙に関する気持ち、人を選ぶことに特に関心があったようです。自分も政治に参加するんだといった気持ちを持っていたようです。

学問に関しても異常なほどで、明治すぐに旧制の大学に沢山入学されています。神社寺院の後継者ではなく、日本から植民地に行くための専門知識を得るのに、松江市内に出ないで当地に学校を創設したい念があり出来た、三刀屋中学、横田農林、大東高等女学校が出来ました。

大東町に農学校から続いて女学校、そして高等学校に至り、百年の歳月と町制と同年代共に歩いて来ました。終戦後、学校改革に伴い、新しい学校制度で出発し、当初は新制高校となりました。私は、新制高校第1期入学生で、旧制中学校、女学校等より入ってきた2年、3年生は中学校入学で卒業は高等学校となり、最初より入試で卒業となったのは第5期生が1期生となるのです。昭和25年入学で6月には朝鮮動乱があり南北に別々の国が出来ました。校歌も校章も無かったです。運動場も幸い出来て、体育館も3年生の時に完成いたしました。当時運動部(クラブ)も多くありました。野球、バレーボール、卓球、テニス、陸上、マラソンなどです。

大東高校が百年になり誠におめでとうございます。卒業生たちも各地で頑張っておられます。今後共に学校の存続に皆様のご協力をお願いいたします。

新会員
紹介

廣安 隆翔 (第71期)

私は、3月に大東高校を卒業し4月から日本コルマー株式会社に就職しました。私は日本コルマー株式会社に入って一番大切にしていることは相手からではなく自分からコミュニケーションを取ることです。仕事をし始めの頃は職場の先輩方とのコミュニケーションを上手く取ることが出来ずわからないことをそのままにしていることもありました。今でもわからないことは沢山あります。そこで分からないままにするのではなく先輩方とコミュニケーションを取って

教えてもらうこと、相手から話しかけられるのを待つのではなく自分から聞くことがとても重要だと感じました。高校で学んだことは社会に出ても活かせることは沢山あります。今後も大東高校で学んだことを活かすために色々なことに挑戦し、自分ができることを増やしていきたいと思えます。

八雲会

平成30年度事業報告

平成31(令和元)年度事業計画

平成30年度 事業報告

平成30年	
4月14日(土)	関西支部会(太田副会長・校長)
4月20日(金)	第1回校内幹事会(役割分担)
5月7日(月)	監査会(H29年度決算)
5月17日(木)	役員会(決算、予算、事業、総会)
6月13日(木)	第2回校内幹事会(総会)
6月20日(木)	大東支部会(小山)
7月7日(土)	八雲会総会
7月21日(土)	広島支部会(安原会長、校長)
8月3日(金)	阿用支部会(加藤)
10月	会報「八雲」第55号発刊
10月27日(土)	関東支部会(安原会長・森山)
11月21日(水)	海潮支部会(若槻)
11月22日(木)	春殖支部会(若槻)
平成31年	
1月18日(金)	佐世支部会(恩田)
2月19日(火)	第3回校内幹事会(入会式)
2月21日(木)	幡屋支部会(成相)
2月28日(木)	第71期八雲会入会式
3月3日(日)	久野支部会
3月16日(土)	加茂支部会(校長)

平成31度(令和元年) 事業計画

平成31年(令和元年)	
4月20日(土)	関西支部会(錦織副会長・校長)
4月22日(月)	第1回校内幹事会(役割分担等)
5月22日(水)	監査会(H30年度決算)
6月4日(火)	役員会(決算、予算、事業、総会)
6月17日(月)	第2回校内幹事会(総会)
7月6日(土)	八雲会総会
7月20日(土)	広島支部会(景山副会長、教頭)
8月4日(日)	阿用支部会
10月	会報「八雲」第56号発刊
10月19日(土)	関東支部会
月 日()	松江支部会
月 日()	大東支部会
月 日()	春殖支部会
月 日()	幡屋支部会
月 日()	佐世支部会
月 日()	海潮支部会
月 日()	久野支部会
月 日()	塩田支部会
月 日()	加茂支部会
月 日()	宍道支部会
月 日()	木次支部会
令和2年	
月 日()	第3回校内幹事会(入会式)
2月28日(金)	第72期八雲会入会式

平成30年度 大東高校八雲会一般・特別会計決算書

1. 収入の部

(単位:円)

費目	本年度予算額	決算額	比較増減額	備考
入会金	921,000	903,300	▲ 17,700	年額3,000円
繰越金	716,718	716,718	0	前年度繰越金
寄付金	400,000	441,000	41,000	寄付金
雑収入	82	4	▲ 78	預金利息
合計	2,037,800	2,061,022	23,222	

2. 支出の部

(単位:円)

費目	本年度予算額	決算額	比較増減額	備考
総務費	600,000	384,056	▲ 215,944	
会議費	230,000	107,383	▲ 122,617	役員会、総会費
旅費	250,000	186,380	▲ 63,620	支部会出席旅費
通信費	40,000	20,650	▲ 19,350	郵券等
事務費	30,000	21,421	▲ 8,579	事務用品、振替払込書印字代等
管理費	50,000	48,222	▲ 1,778	会員登録、データ管理等
事業費	1,290,000	1,135,432	▲ 154,568	
八雲発行費	650,000	622,152	▲ 27,848	会報「八雲」印刷代、発送費等
支部助成費	600,000	480,000	▲ 120,000	関東、関西、広島、加茂、大東、春殖、幡屋、佐世、阿用、久野、海潮の各支部
入会式	40,000	33,280	▲ 6,720	入会記念品(卒業証書入用筒)
雑費	10,000	10,800	800	新聞広告料
予備費	137,800	0	▲ 137,800	
合計	2,037,800	1,530,288	▲ 507,512	

特別会計(積立)決算書

平成29年度末残高 539,574円
 平成30年度利息 4円
 平成30年度末残高 539,578円

(収入総額) 2,061,022円

(支出総額) 1,530,288円

(差引残額) 530,734円・・・平成31(令和元)年度へ繰越

平成31(令和元)年度 大東高校八雲会一般・特別会計予算書

1. 収入の部

(単位:円)

費目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減額	備考
入会金	939,000	921,000	18,000	年額3,000円×313名
繰越金	530,734	716,718	▲ 185,984	前年度繰越金
寄付金	400,000	400,000	0	寄付金
雑収入	6	82	▲ 76	預金利息
合計	1,869,740	2,037,800	▲ 168,060	

2. 支出の部

(単位:円)

費目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減額	備考
総務費	535,000	600,000	▲ 65,000	
会議費	230,000	230,000	0	役員会、総会費
旅費	200,000	250,000	▲ 50,000	支部会出席等旅費
通信費	30,000	40,000	▲ 10,000	郵券等
事務費	25,000	30,000	▲ 5,000	事務用品、振替払込書印字代等
管理費	50,000	50,000	0	会員登録、データ管理等
事業費	1,290,000	1,290,000	0	
八雲発行費	650,000	650,000	0	会報「八雲」印刷代、発送費等
支部助成費	600,000	600,000	0	関東、関西、広島、松江、加茂、木次、宍道、大東、春殖、幡屋、佐世、阿用、久野、海潮、塩田の各支部
入会式	40,000	40,000	0	入会記念品(卒業証書入用筒)
雑費	10,000	10,000	0	新聞広告料
予備費	34,740	137,800	▲ 103,060	
合計	1,869,740	2,037,800	▲ 168,060	

特別会計(積立)予算書

平成30年度末残高 539,578円
 令和元年度利息 7円
 令和元年度末残高見込額 539,585円

「八雲会」へのご寄付のお礼とお願い

昨年の会報「八雲」で寄付金のお願いをいたしましたところ、日本各地にいらっしゃる卒業生の皆様より寄付金を頂戴しました。この紙面をお借りしまして、心より御礼申し上げます。今年も引き続き、皆様のご理解、ご支援をいただきますようお願いいたします。

1. 寄付状況

◇総額：554,000円

◇振込人数 125人

◇都道府県別寄付状況（人）

北海道 2 福島 1 東京 3 千葉 3 埼玉 3 神奈川 4 愛知 2
 岐阜 1 新潟 1 富山 1 京都 4 奈良 1 大阪 19 和歌山 1
 兵庫 5 岡山 3 広島 12 山口 1 島根 52 鳥取 6

◇口別寄付状況（人） 1口1,000円

1口/35 2口/17 3口/26 5口/31 10口/11 20口/2 30口/2 42口/1

2. 寄付者芳名録

（期順、敬称略）※平成30.8.1～令和元年9.13のご寄付

期	氏名	都道府県	期	氏名	都道府県	期	氏名	都道府県
実女6	細田 梅野	島根	高10	糸川 幸正	鳥取	高19	今岡 光範	広島
高女2	本池 照子	埼玉	高10	高橋 勝彦	大阪	高19	蘆田 信夫	島根
高女5	森山 匡子	島根	高11	小川 治男	広島	高19	吾郷 義治	東京
高女5	玉木 博子	島根	高11	岡田 靖男	島根	高19	郷原 保男	島根
高女6	足立 弥生	島根	高11	井上 映子	島根	高19	高原 康子	東京
高女6	古川百合子	兵庫	高11	岸根 武子	千葉	高19	後藤ヒロ子	岐阜
高女6	大村 環	島根	高11	安原 重隆	島根	高19	渡邊たえ子	神奈川
高女7	山藤 禮子	富山	高定11	新田 鐵幸	島根	高21	奥津 正江	岡山
高女7	都岡 トメコ	島根	高12	佐藤 清	岡山	高21	鍛冶 咲子	大阪
高女併中1	三次美智恵	島根	高12	古山 育子	島根	高22	高橋 敬二	島根
高女併中1	石田 守子	島根	高13	田形 満雄	島根	高22	斉藤 祥子	愛知
高併中1	打海 寿子	広島	高13	持田 通夫	大阪	高22	吉岡 祥治	島根
高3	経種 信明	北海道	高13	小山 香	山口	高22	野々村朋之	大阪
高3	大村 誠	島根	高13	太田多美子	島根	高22	藤本美恵子	広島
高3	藤間 熙子	神奈川	高定13	三島 修	京都	高22	原 幸生	大阪
高3	矢野 操子	大阪	高14	鏑田 文夫	島根	高22	中村 淳	大阪
高3	江草まゆみ	京都	高14	内田 捷彦	新潟	高23	門脇 文雄	北海道
高定3	狩野 精夫	神奈川	高14	伊原カタエ	島根	高23	簾 洋一	広島
高4	千葉 隆子	大阪	高14	錦織 琢郎	島根	高23	小山 勉	大阪
高5	加藤 文則	鳥取	高14	安原知加子	島根	高23	黒沼美恵子	京都
高5	藤本 浩子	大阪	高14	加納美百合	鳥取	高23	辻本 久行	大阪
高5	入江 早苗	島根	高14	川西 雄二	大阪	高24	坂根 郁子	島根
高5	藤原 義正	兵庫	高15	内田 敦子	神奈川	高24	前田 美子	京都
高5	狩野 彰彦	広島	高15	濱村 芳	島根	高24	池田智恵子	鳥取
高5	山崎 克美	兵庫	高15	山中 茂樹	埼玉	高24	木村 智江	島根
高5	障子美代子	島根	高16	長谷川 亨	島根	高24	福岡 功	広島
高5	西 基宣	島根	高16	松浦 孝保	鳥取	高24	竹下 義文	島根
高5	藤本 久子	鳥取	高16	広木 益夫	大阪	高26	田中 明子	島根
高6	直良 幸子	島根	高17	永業久美子	鳥取	高26	前川 道栄	広島
高6	勝部 光代	島根	高17	狩野 勉	岡山	高28	西村 馨	島根
高定6	神庭 勇	大阪	高17	川島 陽子	大阪	高28	西村佐智子	島根
高7	村田 満枝	千葉	高17	永田美恵子	島根	高31	足立 幸夫	埼玉
高8	土井 進	大阪	高17	山崎 善吉	愛知	高32	佐藤 博芳	東京
高8	加納 武夫	福島	高17	宮廻 直幸	兵庫	高32	森山 智	島根
高8	勝田 純子	広島	高17	奥原 稔	島根	高32	山根 陽二	兵庫
高8	瀧 清	島根	高17	山根ヒロ子	島根	高35	勝部 清	島根
高家8	天野眞美子	千葉	高17	荒木千代美	大阪	高41	田中 秀信	島根
高10	白名 弘子	島根	高17	錦織 一夫	島根	高44	安原みずほ	島根
高10	岡田 邦雄	広島	高18	藤田マスミ	大阪		福岡 悦子	島根
高10	田中 力	大阪	高18	高橋 計也	島根		八雲会阿用支部	島根
高10	高橋 潮	奈良	高18	永瀬 康典	島根			
高10	森 龍治	広島	高18	土井 恵子	広島			

振込方法

専用振込用紙を年に一度お送りしている会報誌『八雲』と一緒にお届けします。一口1,000円から受付けさせていただきます。

- ◆寄付金額：一口 1,000円
- ◆振込先：ゆうちょ銀行（振込手数料はかかりません）
 口座記号番号 01390-5-103127 口座名称 八雲会
 ※他行等からの上記口座へのお振込の場合は下記内容をご指定ください。振込手数料は差し引いてご入金ください。
 店名(店番) 一三九(イチサンキュウ)店(139) 預金種目：当座 口座番号：0103127
- ◆その他・卒業生のお名前で（ご家族の方等が振り込まれる場合も）お振り込みください。
 - ・通信欄に卒業期、または卒業年度をお書きください。
 - ・振込期限はありません。（随時受付をしています）

※平成30.10.1～（追加分）

創立100周年 寄付者芳名録

細木 令子	原田 憲一	鶴原 武夫	加納 博行
原 洋子	加藤 健一	鐘築 薫	安田 和彦
野津 満	その他匿名による寄付1名		

記念誌の再頒布について

平成29年10月発行の「八雲」第54号でご案内いたしました「創立百周年記念誌」を今年度4月に配布・頒布いたしましたところ、多少の余りが出ました。また、記念誌をお配りした後で頒布についてのお問い合わせもありました。

そこで、下記のとおり往復はがきで記念誌の頒布について改めて公募を行います。ご希望の方は往復はがきで令和2年2月14日(金)（消印有効）までにお知らせください。

応募者多数の場合には、抽選で記念誌を実費3,000円でお分けいたします。

尚、代金は記念誌のお届けに際して同封した振り込み用紙にて、郵便局でお支払ください。

往復はがきの書き方

- ・往信の宛名面 郵便番号 699-1251 雲南市大東町大東637 大東高等学校八雲会事務局
- ・返信の宛名面 記念誌希望者の郵便番号、住所、氏名
- ・往信の裏面 記念誌希望と書き、郵便番号・住所・氏名・卒業期または卒業年・電話番号
- ・返信の裏面 何も書かないでください

往信の宛名面	返信の裏面	返信の宛名面	往信の裏面
63 6991251 大東高等学校 八雲会事務局 行 雲南市大東町大東637	何も書かないでください。	63 □□□□□□ ↑ 記念誌希望者の郵便番号 住所・氏名	記念誌希望 郵便番号・住所 氏名・卒業期または卒業年 電話番号



昭和に創刊され通算30号となる「大東支部だより」

八雲会大東支部副支部長 青木 愛治 (第18期)

八雲会大東支部が力を入れて取り組んでいる活動の一つに、「大東支部だより」(以下「支部だより」という)の発刊がある。第1号が1987(昭和62)年度に創刊されて以来号を重ね、創立百周年記念号となった昨年度の第29号を経て、本年度で節目の第30号となる。

毎号、旧制の女学校時代から新制高校の平成時代の卒業生に至るまで、できるだけ幅広い年代の支部会員の方々に学園生活の思い出等を綴った寄稿文をお寄せいただき、掲載させていただいている。

本校創立百周年記念事業の一環として、『大東高等学校百周年記念誌』(以下『記念誌』という)が刊行されるに当たっては、本「支部だより」が、創立60周年時から90周年時までの各記念誌、卒業生会誌「八雲」、生徒会誌、PTA会報、部活動後援会会報等と共に、必要不可欠な資料の一部となった。

『記念誌』には、「支部だより」向けに実業女学校、高等女学校、草創期の新制高校の卒業生の方々にご執筆いただいた貴重な体験談が少なからず転載されており、『記念誌』を読み応えのあるものになっている。



それらの体験談では、新しいセーラー服や初めて履いた革靴に胸をときめかせた実女時代(実女1期 内部睦子様「追憶」)、軍人勅諭の暗誦に明け暮れた高女時代(高校3期 渡部純子様「思い出」)、合宿優先で授業が免除されることもあった部活動(高校13期 古瀬文則様「剣道で得た貴重な体験」)、帰宅できないほどの豪雨の中夜間一人で行った雨量観測(高校12期 土谷章子様「気象班」)、ベニヤ板の平板なものが原則とされていた体育祭のデコレーションを、特例として認めてもらい、竹を使って立体的なものに仕上げた巨大な「太陽の塔」(高校23期 小山令子様「“太陽の塔”の思い出から」)等の回想談が生き生きと語られ、興味深い読み物となっている。その外、『記念誌』に採録されている野球部OBの方からの寄稿文(高校31期 中島豊様「野球部の思い出」)からは、部員不足で一時存続が危ぶまれた当時の同部の状況をうかがい知ることが出来る。

時期になると、支部役員(支部長外10名)を委員とする「支部だより」の編集委員会が持たれ、寄稿していただだけそうな方々を、年代のバランスも考慮しながら人選させていただき、後日ご本人に原稿の依頼を行ってきているが、例年ほとんどの方に執筆を快諾していただいております。

本「支部だより」は本校の歩みを記録に留めるうえで一定の役割を果たしているものと編集委員一同自負しつつ、編集作業に勤しんでいる。今後の節目、節目での各記念誌編纂等でも多少ともお役に立てるようこれからも力を尽くす所存である。支部の会員の皆様には引き続きご協力をよろしくお願いしたい。





阿用支部活動について

八雲会阿用支部支部長 永瀬 康典 (第18期)

阿用支部会員数は現在145人です。ここ数年の支部総会は、阿用交流センターで校長先生、八雲会事務局の先生を交互に招き大東高校部活動の状況等を聞き懇親会を開くというのがパターンでした。今年度は趣向を変え奥出雲町へ出かけ研修会を兼ね支部総会を開催しました。

平成31年2月農林水産大臣より、「出雲国たたら風土記 ～ 鉄づくり千年が生んだ物語」が日本農業遺産に認定されました。その対象地域は雲南市、奥出雲町、安来市と広範囲ですが、今回の研修は、奥出雲町を訪れたたら製鉄に学び、鉄穴流し跡に拓かれた棚田の景観を見学することにしました。参加者は20人。奥出雲町「玉峰山荘」観光ガイド内藤伸夫さんの案内で8月4日行ないました。

最初に訪れたのは奥出雲町大馬木の大原新田（日本棚田百選）。バスで棚田の一番高い場所へ行き見学です。ちょうどコシヒカリの稲穂が出そろい、鉄穴流しの跡地を耕地整理して出来た壮大な棚田です。ガイドの内藤さんによると、鉄師絲原家が文久2年（1862年）に開発した水田。谷川からは冷たい水がこんこんと流れ、ここで採れた「仁多米」が一番美味しいそうです。

次に訪れた場所は、田んぼに鉄穴残丘（鉄穴流しで残った昔の鎮守の森、お墓等がそのまま残っています）が点在する奥出雲町福頼・蔵屋地区です。この残丘は山や丘を崩して砂鉄を採る際、お墓等大切なものをそのまま残したため、それが奥出雲町の棚田に残る独特の風景として現存しています。標高1000m級の中国山地を抱く奥出雲町は、冷たく豊富な水量の川、所々に鉄穴残丘が残り、自然に生えたであろう杉の木が棚田の景観を引き立たせていました。

「たたら製鉄」のことは出雲国風土記：天平5年（733）に載っています。山内と呼ばれる製鉄工場

には100人～200人の従業員が過酷な条件の下で砂鉄と大量の木炭を窯の中で燃やし鉄を作りますが余りの強い火力のため、目がつぶれている人もいたそうです。

そこで「阿用の一つ目鬼」の話が出雲国風土記に阿用の地名の由来として載っていますので、紹介します。

「阿用」地名の由来

『阿用郷。郡家の東南13里80歩なり。古老の伝へに伝へらく。昔、或る人、此の処の山田を佃りて守りき。爾の時、目一つの鬼来て、佃人の男を食へり。爾の時、男の父母、竹原の中に隠れて居りき。時に竹の葉動げり。爾の時、食はえし男、
「動々」と云ひき。故、阿欲と云ふ。』

【出雲風土記抜粋。神龜三年に、字を阿用と改む】

阿用郷は今の阿用地区に西阿用、清田、金成、大木原及び久野地区を含む広い地域をさします。目一つの鬼の妖怪伝説は珍しく、風土記では阿用郷以外にはありません。

ここからは一つ目鬼に関する私の物語です。

たたら製鉄を営む山内で人手が足りず、片方の目が焼けた山内従業員が人集めのため阿用郷へ出かけました。八代から樋ノ谷を越えた久野の地で農夫に出会い、従業員はたたら製鉄の仕事をやらなかと強引に誘っていました。この様子を見ていた農夫の両親は恐ろしくなり竹藪に隠れました。両親が見た山内の従業員は、背が高く顔も大きく筋肉隆々の体つき、片方の目がつぶれ怖い顔で、まるで一つ目の鬼のような形相だったようで、この話が言い伝えとなり出雲国風土記に載ったのではないのでしょうか。

阿用郷も当時からたたら製鉄が営まれ、古来より奥出雲町と阿用は鉄づくりと「一つ目鬼の妖怪伝説」で深い繋がりがあったと思われます。

さて、今回の地区外へ出かけての研修会・総会は急な計画でしたが、会員20名の参加をいただき、懇親の場では一つ目鬼は阿用のどこへ出たのか？など盛り上がりました。

終わりに今回の研修会でガイドをお願いしました玉峰山荘の内藤伸夫さんには大変お世話になりました。有難うございました。



奥出雲町大馬木の大原新田の見学

●平成30年度～平成31(令和元)年度 八雲会役員一覧

役職	氏名	期	役職	氏名	期
顧問	川上 朋良	高3	副会長	錦織 直行	高19
	景山 純孝	高9		中村 訓子	校長
会長	安原 重隆	高11	監事	増田 敏男	高10
副会長	太田多美子	高13		狩野 健吉	高18
	景山 源栄	高15		石川 辰子	高23

【理事】

地区	氏名	期	地区	氏名	期
大東	蘆田 道昭	高16	塩田	新田 国善	高27
	森脇 誠夫	高10	加茂	錦織 直行	高19
	光谷由紀子	高18		藤原 慶介	高12
	青木 愛治	高18		岸本 邦夫	高19
	糸川 栄一	高19		永瀬 敬治	高23
	安部 幸治	高24		高橋 雄二	高32
春殖	横山 美昭	高20		木次	佐藤 隆司
	木村 晋吾	高27	細木 弘志	高32	
幡屋	森山 武史	高25	宍道	渡部 清美	高27
	山崎 英志	高29	松江	細木 勝美	高18
佐世	錦織 一夫	高17		八幡 憲次	高19
	高橋 敬二	高22	広島	佐藤 真	高17
阿用	永瀬 康典	高18		富久 禮識	高6
	陶山 隆之	高17		佐藤 和紀	高12
	矢壁 正弘	高28		関西	広木 益夫
	安部万里子	高28	関東	鏑木 茂雄	高32
久野	上代 英治	高29		持田 啓司	高32
海潮	新田 昭隆	高15			
	木村 昭憲	高17			
	宮川 稔	高27			

【大東高等学校事務局】

事務局長 石原 学(教頭)	幹事長 門脇 康文(高39)
幹事 藤井 孝之(事務長)	幹事 森山 智(高32)
幹事 恩田 守(高32)	幹事 小山 剛(高35)
幹事 加藤 宏明(高57)	幹事 若槻 太一(高63)
幹事 細木 涼平(高67)	幹事 小山美紀子

よろしくお願ひします。

☆大東高校公式  もご覧ください

【代議員】

地区	氏名	期	地区	氏名	期
大東	下見 美光	高24	宍道	佐藤 和彦	高32
	小山 益男	高20	松江	岩橋 弘政	高18
	狩野 恵子	高24		勝部 修	高19
	山本 司	高32	広島	渡部 剛	高16
春殖	糸原 優二	高33		三島 暁子	高17
	田中 久志	高33	関西	小山 勉	高23
幡屋	郷原 辰雄	高22	関東	佐藤 博芳	高32
	舟木 忠夫	高24	【八雲会支部長】 大東支部 蘆田 道昭 春殖支部 横山 美昭 幡屋支部 森山 武史 佐世支部 錦織 一夫 阿用支部 永瀬 康典 久野支部 上代 英治 海潮支部 新田 昭隆 塩田支部 新田 国善 加茂支部 錦織 直行 木次支部 佐藤 隆司 宍道支部 渡部 清美 松江支部 細木 勝美 広島支部 佐藤 真 関西支部 広木 益夫 関東支部 鏑木 茂雄		
	武田 良伸	高32			
	田中 互	高37			
佐世	安部 博	高18			
	鶴原 憲治	高25			
阿用	木色 薫	高20			
	森山 肇	高24			
	安井 修	高25			
久野	長妻 賢二	高32			
	三澤 郁穂	高35			
海潮	岩田 和義	高19			
	福間 廣明	高20			
	佐々木 徹	高23			
	山根 和幸	高25			
塩田	安達 隆亜	高42			
加茂	竹村 治美	高17			
	吉岡 敏隆	高27			
木次	上野城保明	高49			

編集後記

会報「八雲」の発行に際しましては、ご多用の中、今年も多くの皆様のご協力をいただきました。心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。



大東高校内八雲会本部事務局

島根県立大東高等学校
 〒699-1251 島根県雲南市大東町大東637
 TEL(0854)43-2511・FAX(0854)43-2512
 E-mail:daito-hs@edu.pref.shimane.jp
 ホームページ http://www.daito-h.ed.jp/